第２回生駒市総合計画審議会

開催日時　平成２７年９月２５日（金）　９：３０～

開催場所　生駒市役所　４階　４０３・４０４会議室

出席者

（委員）　中川委員、久委員、森岡委員、永野委員、大原委員、楠下委員、幸元委員
梶井委員、中山委員、村上委員

（事務局）小紫市長、今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課課長補佐
岡村企画係長、松尾企画係員

欠席者　　加藤委員、中谷委員

議事内容

（１）総合計画進行管理検証報告書

【事務局】　（資料１について説明）

【中川会長】　資料１の内容について何か質問・意見等あるか。

（異議なし）

【中川会長】　よろしいか。特段の意見・異議がないということであれば、今後の予定について事務局から説明願いたい。

【事務局】　特に修正等がないようであれば、次回１１月９日開催予定の第３回全体会にて、答申をいただきたいと考えている。

【中川会長】　了承した。最後に、検証報告書の取りまとめは、会長による調整の上、一任とすることを了承いただきたい。それでは、平成２６年度総合計画進行管理について、事務局案をベースに、この検証報告書を本審議会として１１月９日開催予定の第３回全体会にて答申することとしてよいか。

（異議なし）

（２）後期基本計画（見直し案）

【事務局】　（資料２、資料３、資料４、資料８について説明）

【中川会長】　内容が豊富なため、意見・質問等あれば一旦賜りたいと思う。いかがだろうか。

【大原委員】　５－（３）－１の企業立地に「サテライトオフィスの誘致」とあるが、「サテライトオフィス」という言葉は説明がなくとも多くの人が理解できるのだろうか。

【中川会長】　これは注釈を加えておいたほうがよいのではないだろうか。

【事務局】　そのように修正させていただく。

【中川会長】　ぜひ工夫していただきたいと思う。ここ数年「サテライト」という語句が多用されているので日常用語のように思えてしまうが、分からない人も多くいる。最近では「サテライトスタジオ」とよく使われ、まちなかにラジオ局なども出てきているが、「サテライトオフィス」となった場合、どうなるか少々イメージが異なってくるであろう。

それでは、只今出た意見を踏まえて事務局で一部修正し、修正案については、私に一任いただきたい。修正した後の案については、後日、各委員にメールで報告することとしてよろしいか。

（異議なし）

【中川会長】　本日示していただいた後期基本計画見直し案等を用いてパブリックコメントを実施するということで、よろしくお願いしたい。

（３）パブリックコメント

【事務局】　（資料５、資料６、資料７について説明）

【中川会長】　何か質問・意見等あればお願いしたい。

【楠下委員】　今回の見直し内容は非常によく示されている。市民の関心が高いところも結構盛り込まれているように思う。「まち・ひと・しごと創生」には女性の更なる社会参加を推進する面もあるので、このパブリックコメント実施と同時に、分かりやすい概要版を作って市民に知ってもらうなど、市民に対する周知・広報の方法は検討しているのか。

【事務局】　ホームページにパブリックコメント実施のお知らせを掲載し、１０月１５日号の広報誌でのお知らせも予定している。昨年の策定時と同様に、カラー刷りの概要版をまとめたので、こちらを見ていただくとある程度見直し内容が分かるようになっている。

【大原委員】　これは久会長代理に尋ねたいのだが、まち・ひと・しごと創生総合戦略

の概要版にはテレワークやプロボノが出てこなくて、総合計画の見直し案には出てくる。それでよいのだろうか。もうひとつ、市だけでなく国全体が女性や母親ばかりを取り上げる風潮というか、男性は放っておいて蔑ろにするような流れのようなものがあるが、それでよいのかなという思いがある。

【久会長代理】　概要版は大まかなスケールで書いてあるので、テレワーク等はその次の具体的な話になる。そういう意味では、総合戦略の概要版には出てこないが本体版には出てくるし、基本計画の方は本体版が示しているので、こちらには載っているという理解だと思う。

それから、女性の話について。今回、総合計画の基本計画部分とまち・ひと・しごと創生総合戦略と両方提示されているが、総合計画の方には様々な方を対象とした色々な支援施策が入っている。総合計画と同じようにまち・ひと・しごと創生総合戦略を書いてしまうと、創生の総合戦略が非常に薄まってしまって、どこをターゲットとしているかよく分からなくなってしまう。というわけで、まち・ひと・しごと創生総合戦略の場合、まずは子育て層の女性に１つの大きな光を当てている。生駒は今、非常に高いポテンシャルを保有している子育て女性が多い。そのような方々がもっと生き生きと地域や社会に貢献でき、そして、それが収入に繋がれば子育てにも役立つし、彼女たち自身の社会的ポジショニングにも役立つ。高齢者が入ってない、男性が入ってないとかいう話になってくると計画が薄まってしまうので、あえて今回、まち・ひと・しごと創生総合戦略は尖ったものにしている。

【中川会長】　では、ほかに何か質問・意見あるだろうか。最後に全員、ご発言いただきたいと思っている。

【久会長代理】　パブリックコメントに係るチラシについて「どんな意見を出せばいいの？」とあり様々な例が記載されているが、私の最も欲しい意見の例が１つ抜けている。それは、「この分野についてこう思っている。なので、この部分の文章をこう直してください」とはっきり分かる提案。このような提案や指摘であれば、事務局としても受けやすいのではないだろうか。今、例として示しされているものは、市民としては書きやすいが、行政として

は受けにくい。なので、例をどれか削っていただいて、具体的な意見・指摘の例を入れていただけないだろうか。「新たな取り組みに追加して盛りだくさんの計画になっていますが、財政は大丈夫なんでしょうか」というコメント例が現在記載されているが、このような意見が寄せられても、多分、市としては「大丈夫です」という答えを返すだけの話だと思う。削るとすれば、このコメント例かもしれない。

【中川会長】　一般的・概括的な市政への意見もらっても仕方ない。各分野あるいは事業項目ごとの極めて明確な記述が欲しいので、それを引き出せるような例の示唆をお願いしたいということだろう。久会長代理が削ってもよいかもしれないとおっしゃった例は、私も削除すべきだと思う。

【事務局】　そのように修正したい。

【中川会長】　何かほかに意見等ないか。よろしいだろうか。

それでは、ほかに異議がないようであれば、先程示された資料をもとに一部修正を加えていただき、当審議会の名においてパブリックコメントを来月７日から３０日間実施することとするがよろしいか。

（異議なし）

【中川会長】　資料５「パブリックコメントに係るチラシ」の修正については、久会長代理にもう一度確認していただいて、最終案としてもらいたい。

【事務局】　承った。

【中川会長】　少し、全体のことを確認し直したい。まず、今回の後期基本計画見直し案については、先ほどの検証報告書をベースとしつつ修正を加えており、新市長のマニフェストに対応した条文の修正、加筆、あるいは加筆の必要なしを各々判断して一定の変更を加えてある。それから、実施期間の変更も行っている。それは我々審議会の任として、当初のスタートラインだった。その途中、総務省から、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、通称「地方創生総合戦略」の作成要請が来た。これについては、今年中に作成し、次年度から実施なので、早ければ今年１１月までに国に報告をせねばならない。

総合戦略案も別途作っておられるが、地方創生総合戦略と総合計画とがバッティングする、あるいは、ずれるというのはおかしな話なので、対応

を非常に意識しつつ久会長代理の方で作業していただいている。しかしながら、地方創生総合戦略が総合計画と齟齬を来している内容では全くないということだけは、各委員にご了解いただきたい。つまり、総合計画の中の幾つかを抜粋しながら、より強調し、一層対応・整合を行い、「まち・ひと・しごと創生総合戦略として抜き出すとこうなりますよ」といったように、非常によいものを作っていただいた。そういう形で本日、これが最終的に修正案として出されるに至った。久副会長代理には大変苦労をおかけして申し訳ない。御礼申し上げる。

それでは、これで一旦パブリックコメントを出すということで了承いただいた。ここで、審議会が始まってから今日に至るまでについての様々な見解・意見・感想など、おひとりずつ１～２分程度を目安に賜りたい。毎回一番手に指名してしまい申し訳ないが、森岡委員からお願いしたい。

【森岡委員】　３つの部会に分かれているので、ほかの部会は正直目を通すのがやっとという現状。時間が短く検討に大分苦労したので、できればもう少し時間的余裕、あるいは資料の見やすさ等を工夫していただけたらありがたい。

それから、女性の更なる社会進出を促す取組が進められているが、北部地域だとバスで通勤するしかない。バスに乗ってパートに行くにしても、交通費が出ないということも非常に多い。公共交通活性化協議会で言っているのだが、例えば鹿ノ台周辺に住んでいる人だと、近鉄沿線の方へバスで出ていくしかないのだが、バス代が非常に高い。そこから更に電車に乗るとなれば、交通費の負担が相当なものになってしまう。ところが、「交通費を負担して欲しい」とパート先に言うと、パート先にとっては交通費がかからない人の方がありがたいので、交通費がかかる人はオミットされる。

「子育て支援」というのであれば、生駒の特殊な立地条件を念頭に置いた上で、女性がもっと働きやすくなる生駒独自の施策を考えねばならない。生駒の現状を踏まえ、女性が働きにくい要因は何かということを、もう少し掘り下げた施策が必要になってくるのではないだろうか。

生駒の特徴的な立地条件にまつわる問題について、もう１つ具体的に挙げるならば、保育園・幼稚園の増設である。待機児童問題もあり「園

を作ろうとなった」ときに、その地域に作るのか、あるいは最寄りの駅付近に作るのか。自分自身も共働き夫婦だったのだが、家の近くに園があるのは便利と言えば便利な一方で、勤め先から最寄り駅に帰ってきて、そこから更にバスに乗って園まで子どもを迎えに行くのは相当時間がかかる。なので、園を増設する際には住宅地付近にするか駅近くにするとかいうことも、十分に検討すべきではないだろうか。

地形のせいか、生駒の駅にバスが集中しないので、人口が富雄や学園前など奈良市の方へ流れていく状況の中では、行政そのものも非常に難しいと思う。市の特徴を掘り下げた施策を今後考えていくべきではないだろうか。全体的に見ると、そのようなところが弱いような気がする。今後の課題として、ぜひとも検討してもらいたい。

【中川会長】　では永野委員、どうぞ。

【永野委員】　森岡委員がおっしゃったように、生駒からどこかへ出ようとすると、交通費が大変高い。娘が仕事を探していたとき、やはり一番のネックになっていたのは交通費。大阪の方に行っても奈良の方に行っても、生駒は一番端なので交通費がかかり、ほとんどが交通費を理由に落とされてしまう。生活面だけでなく、生駒から通勤したい若者の就職面でも、交通費というものはかなり厳しいかもしれない。

資料を読んでいると「女性」、「女性」とあまりにも強調してあるので「なぜ女性ばかり強調するのだろう」と女性である自分自身も疑問に感じていたのだが、先ほどの久会長代理の説明で納得した。

部会については、今回かなり日程が詰まっていたので資料等を読むのが大変だった。なので、可能であればもう少し間隔をあけて開催していただけると非常に助かる。審議会で色々審議した事柄をこれから実施されていくかと思うが、トイレを洋式にする件など市民の利便性・負担軽減に関係する部分は、できるだけ早く実施していただければと思っている。

【中川会長】　では大原委員、どうぞ。

【大原委員】　様々な事業に取り組んでいるが財政が伴うのかということと、やはり学研都市という大きな問題も抱えていると思うので、今後どの程度まで

見ていくのか等を学識の先生方にアドバイスしていただきたい、ということを申し上げたい。

【中川会長】　楠下委員、どうぞ。

【楠下委員】　これまで色々なものの積み上げをやっていただいたが、今回の見直しを通して、総合計画のＰＤＣＡに基づくチェックの仕組みが生駒市に結構定着してきたと思う。それから、市長マニフェストをベースに方針内容を盛り込んだということで、今後様々な情報が入ってくると思うが、その都度見直ししていけば最新版の総合計画になっていくだろう。ＰＤＣＡの推進については、これで結構だと思われる。

また、各部局共通の課題が結構増えてきたと思う。担当課だけではなく、各課の連携を更に進めていただくと効率化に繋がるかもしれない。

それから、市民の関心が高い話題が非常に増えてきた。なので、市民・事業者・自治会関係等にどんどん情報を提供していただき、市の現状や市政をより分かりやすい形で発信し、市民全体に理解していただくことが、生駒市の計画を推進していく原動力になるのだと思う。一層効果的な周知・広報を考案していただきたいと感じているので、よろしくお願いしたい。

【中川会長】　では村上委員、どうぞ。

【村上委員】　土地が平坦な他市から転入してきたので、アップダウンが多い生駒の地形を踏まえたときに、高齢化にまつわる問題は避けられないと感じた。これからの高齢化に伴い、バス等の公共交通が行き届いていない地域では買い物難民増加時代に突入するのではないかと不安を感じることもある。

また、子育ての観点から、高齢者と接することのない核家族の子どもに対し、お年寄りとの繋がりが得られる機会があればよいと感じる。お年寄りも子どもたちから元気をもらえるし、子どもたちにも人生のお手本ができるのではないだろうか。

高齢化や核家族の転入者が多い生駒独自の課題を踏まえて、このような取組も考えていただければありがたい。

【中川会長】　では中山委員、どうぞ。

【中山委員】　駅近くはバスの乗車等が便利だが、高山や鹿ノ台ではバスの本数も少な

く料金も高いので、もう少し市民の利便性が向上するような交通システムがあればと思う。そうすれば、生駒市役所で行事等が開催されるとき、お年寄りの方も参加しやすくなるのではないだろうか。

【中川会長】　梶井委員、どうぞ。

【梶井委員】　女性支援や子育てしやすいまちというのを前面にＰＲしていただいて、そういう方向で進んでいただけると大変ありがたいと思う。若い世代の人たちに生駒に来てもらうことによって、高齢者の方を支えるシステムがうまく循環していけばよいと思う。よろしくお願いしたい。

総合計画審議会については、各委員がおっしゃるように、資料の量に対して目を通す時間があまりにも少なかったので、もう少し時間的な余裕があればありがたい。

それから、「パブリックコメントに係るチラシ」についてだが、「パブリックコメント」という文字はあえてチラシには入れていないのだろうか。前回、広報には「パブリックコメント募集」のような見出しが載っていたように思うのだが。特に意図がないのであれば、チラシと広報に載るパブリックコメントの募集が同じものだと分かる方がいいと思う。

【事務局】　特段の意図はない。今回の広報についても昨年と同じように「パブリックコメント募集」としているので、このチラシも同様のパブリックコメント募集であるということが分かるよう、見出しを加え修正したい。

【中川会長】　では、幸元委員どうぞ。

【幸元委員】　１０月７日から１１月５日がパブリックコメント募集期間で、市の広報が１０月１５日の掲載ということだが、市の広報が各家庭にそれ程早く行き届いていないと実感している。広報が各家庭に届くには時間が掛かるので、次回は広報の掲載時期をもう少し早めてもよいと思う。

個人的な感想かもしれないが、総合計画が段々と地域に密着したものになってきているなと感じさせてもらっている。ただ、資料も含めてまだ難しい表現が散見される。施策等、計画そのものについてはかなり地域に密着して検討していただいており、自分たちも微力ながら協力させていただいている。しかし、社会の情勢は変化していくものであるので、これからも定期的な見直しを継続して実施していただけたら、より一層住みやすい

生駒になっていくのではないかと思っている。

【久会長代理】　今回、検証をさせていただく中でも分かったのだが、協働し市民の力をうまく活用している施策と、まだまだ頑張って市民力を活用しないといけない施策があるように思った。けれども、生駒の市民力には優れたポテンシャルがあると思っている。

４年ほど前から「はならぁと」という現代アートの展覧会が、奈良県応援のもと始まった。「生駒でも開催したい」という声はあったが、この催しには市民だけで動かしていかないといけない部分が多いので、「果たして船頭となってくれるような方が生駒にいらっしゃるのか」と話していた。しかし、去年実行委員会を立ち上げて動いてみると、生駒にはすごい人たちがいるということが確認できた。その方たちをはじめとした市民を中心に今色々と取り組んでいる。今年の１０月１０日から１８日の間、宝山寺参道において、旅館をはじめとした様々なところに現代アートが展示されるので、非常に魅力的なまちに変貌すると思う。市役所職員にも協力いただいているものの、ほとんど市民の力で運営・実行できた。それも、若い人たちが中心に動いてくださった。

「いこママまるしぇ」の女性陣も市民力に満ちている。市役所や商工会議所が手伝ってくれてきっかけを作ってくださった。そのことによって、たくさんの女性市民が集まり、その方たちで運営ができるようになった。そのとき、商工会議所や市役所のやるべき仕事というのはやはり「きっかけづくり」ではないだろうか、と思った。

逆に、せっかく市民の力が発揮できるのに、２年に一度しか予算がつけられていないのが公園のコミュニティパーク事業。これは、地域の方がワークショップで公園のリニューアルを一緒に考えてくださる事業である。去年は２箇所のリニューアル希望があったにも関わらず、予算が１箇所分しかないので片方は断った。その地域がもう一度リニューアル要望を出すには、２年間待たないといけない。市民がせっかく意欲的になっているのであれば応援をし、市民の力で地域がよりよくなっていくような施策が更に欲しい。

先程のサテライトオフィスについてだが、今、働き方や生き方が変わっ

てきているときなので、難しい時期だと感じている。様々なことにチャレンジし、おもしろい生き方をしている人々が若者を中心に増加している一方、生駒はまだまだ従来型。２０世紀はサラリーマンが世の中を動かしてきたサラリーマンの時代。そして、そのサラリーマンの住まいとしての住宅地を造ってきたことが、今の生駒のニュータウンの原型を造っている。しかし、これから先の時代は、新しい生活、ひいては新しい生き方にチャレンジできる土壌を生駒に作っておく必要がある。

その１つが、サテライトオフィス。しかしながら、生駒は非常に中途半端だと自分は思っている。郊外住宅地としては好条件だが、新しい生き方をするためには非常に制約がある。

１つは自然について。「生駒は緑が豊かだ」というが、自然溢れる山奥のまちからすると、生駒の自然は魅力に欠けている。自然環境で勝負しようと思っても、本当に自然豊かな田舎とは勝負できない。

もう１つは、安く借りれる家やオフィスがあるかどうか。新しいことにチャレンジするとき、若者はできるだけリスクヘッジを図りたいと思っている。一軒家を安く借りることができれば、１階部分をオフィス、２階部分を居住スペースにすることができるので、リスクを非常に軽減することができる。ところが、生駒は地価が高いのでチャレンジしづらい。生駒はこのままサラリーマンの住宅都市でいくのか、チャレンジしたい新しい人たちを受け入れる素地を作っていくのか、大変悩ましい時期かなと思っている。自分としては、新しい時代の新しい生き方・暮らし方・働き方を許容できるような部分を生駒に作っておきたい。しかし先述したように、それには多くの創意工夫が必要となる。

先ほど生駒らしい総合戦略・地方創生総合戦略になっているかという話が出た。語弊のある言い方かもしれないが、今回の総合戦略はパートで働く女性はターゲットにしておらず、もっと尖った戦略にしている。それはなぜかというと、生駒の３０代・４０代主婦について調査を進めた結果、高学歴の方が非常に多いことが分かった。大学院卒の専業主婦がこれだけ多いまちというのは、滅多にない。しかしながら、そのポテンシャルを活かし切れていないという印象を受ける。「ポテンシャルを活かしきれてい

ない」というのは、地域活動だけではなくて、お金を稼げる能力もである。では、それをどうやって応援するかというのが総合戦略の１つの柱になっている。

これも語弊のある言い方かもしれないが、生活に困って働きに行くパターンではない専業主婦に絞り込ませてもらった。逆に言うと、絞り込んだのは、ポテンシャルがあり、夫が働いていて最低条件の一定収入を得ているので、新しい働き方や面白い仕事にチャレンジ可能な主婦たちだ。市役所や商工会議所がタイアップし、おもしろい生き方として展開すれば、ひょっとすると夫以上の稼ぎになるかもしれない。そういった「新しい働き方・生き方」を見た女性だけではなく、男性の「新しい働き方・生き方」のモデルにもなるようなシナリオを、今、事務局と一緒に作っているところだ。単に子育て層の女性ということではなく、こういう生き方を志向している人たちとより豊かな暮らしを通じて、一緒によりよい生駒市にできるような拵えを作らせてもらう。

まち･ひと･しごと創生総合戦略に委員のみなさんは関わっていないが、もしパブリックコメントが始まったら、「もっとこんなことを言えるのではないか」、「この部分が分からないから、変えてほしい」など、意見をいただきたい。おもしろい顔が見える総合戦略を作らせていただいたと思っているので、よろしくお願いしたい。

【中川会長】　では、自分も一委員として少し話をさせていただきたい。

総合計画は前期・後期にわたって随分と進化してきたし、精度も高まってきたという点で非常に安心しているのだが、１つだけストレスがある。

旧態依然たる町役場時代の後遺症が役場に残っているような時代から、自分は生駒市と２０年近くつき合ってきた。そのころから考えると、随分と職員のレベルも上がり、精度も高くなってきて、本当に目を見張るばかりの前進だと思って喜んでいる。その反面、近代主義的・モダニズム的な罠にはまってはいないか不安に感じている。生駒はレベルが高く、それから財政的にも非常に安定してきた。そして、奈良県内の中でも大阪に最も近くて便利で、好感度が高く、雑誌なんかでもベスト２０入りしているので、安心感が非常に濃密に漂っている。この「安心感」で市政を守ること

のできる時間はあと数年しかない。なぜかというと、既に直下型の超高齢化がやってきており、人口構成から見ても非常にたやすく超高齢社会へと転落する。そのとき、財政危機は簡単に来る。そういったことを危機感としてまだ共有できていないのと、何となく「グレードの高いハイブローでハイセンスなまちを目指していこう」という楽観的な雰囲気を持ってしまっていないかとても気になっているのだ。

この総合計画を作ったときに、一番初めに「行政の役割と、市民・民間・事業者の役割をはっきり峻別しましょう」と言ったのは前の総合計画のときである。それ以前はなかった。市民・民間・事業者の役割を書いていなければ、「この総合計画に書いてあることは全部行政がやることでしょ」という雰囲気になるのである。しかし、そうではない。行政ができることは、能力的にも財政的にも限られている。なので、峻別することとした。

その次に、役割の中でも「１人でできること」、「地域でできること」、「地域の法人市民がやるべきこと」を整理した。その中に１つ、仕掛けがある。例えば自治会・町内会を核としつつ、「住民自治を今のうちに立て直さないと、もう手遅れになりますよ」という危機感をここに込めている。なので、実は「市民２人以上でできること」に、「将来の住民自治協議会がすべきメニューリスト」を全て入れてある。これが参画と協働の自治体づくりの、私は仕掛けだと思っている。「市民２人以上でできること」というのは、総合型の住民自治協議体ができたとか、あるいは物すごいパワフルな自治会をやろうとすればできることが全部入っていると思っていただきたい。

しかし、この数年以内に取りかからないと、もう手遅れになってしまう。なぜかというと、自治会役員・会長を聞くとみなさん森岡委員のように元気な方を思い浮かべるかもしれないが、実際「健康に恵まれていている」、「それ程お金に不自由していない」、「時間もある程度自分で自由にコントロールできる」、「人のお世話ができる」、「家族に病人がいない」というこれらの条件を持っている人材が今、生駒市にどれだけ残っているというのだろうか。家族に病人を抱えているどころか本人も病気を患っていたり、経済的にも恵まれた高齢者が少なくなってきている。そんな状態では、地

域のリーダーができる人は出てこない。今のうちに、その仕組みを強化するか立て直すかを行わないと、もうあと数年で市の寿命は尽きる。その危機感がまだまだ欠けている。この計画の中にその危機感があらわれているかというと、地域事情の分野に出てきている。先程述べたように、「市民２人以上でできること」というのは全部、将来の住民総合型の住民自治協議会が担えるメニューリストだ。

それから、久会長代理もご指摘いただいたが、生駒市は典型的なサラリーマン文化の都市。そして、サラリーマン文化の都市ゆえの弱さがある。それは何かというと、発想がコミュニティ型ではなく、いわゆる企業や官公庁等の機能的組織の社会に慣れた男性が圧倒的に主導権を握ってしまっているのではないかということ。そのために女性とうまく対話ができないような文化が中高年に残っている。その部分に断絶がある気がする。その機能的組織社会じみた発想と断絶を何とかしないと、若い女性が参加してくれるようなアクティビティはなかなか生まれない。なので、久会長代理がおっしゃるようなターゲッティングを正確にし、尖った計画の方に問題意識を集中した方が有効性は高いのではないか。

もう１つ言うと、本来の「コミュニティ」というのは共同生産・共同分配・共同消費なのだが、今、そんな農業社会的地域はない。しかし、共同で子育てをしたり、買い物に行けない人の代わりに買い物に行ったりなど、この程度のことであれば回復できるはず。そういうシャープな危機意識をもっと地域社会に持つべきではないだろうか。次の第六次総合計画は、この後期基本計画が終わった後、生駒がぎりぎりと追い詰められる危機感を前提とした計画になるのではないかと思う。

今、奈良県内で奈良交通が非常に頑張っている。奈良交通は黒字の路線を３分の１の確保しつつ、３分の２の赤字路線を何とか持ちこたえてる日本でも有数の会社。その交通会社が撤退するというのは、もうどうしようもない事態。「撤退した路線にコミュニティバスを運行させろ」と言われて運行したって、ほとんど乗らないだろう。交通会社が撤退した路線にコミュニティバスを走らせても、全国的に失敗だらけなのである。「ならば、自分たち市民でマイカーを使用するなどして何とかできないか」と神戸で

行われているような事例のように、運動を市民が起こさないと、もう無理なのである。何でも行政に任せっぱなしというのはもう不可能。行政にそれほど力もない。もう危機的時点に来ている。「全部住民自治に変わりますよ」と明言しているわけではないが、何とか次のステップにジャンプできるように、協働参画、住民自治の強化など、生駒市は総合計画中にじわじわと仕掛けてくれており、よく頑張ってくださっていると思う。

これを以って、第２回生駒市総合計画審議会を終了する。

―― 了 ――